



## 文系・理系の境界線

今年の夏はとにかく暑すぎます。熱中症になりかけた人もいるようで、これからも注意が必要です。塾の教室はもちろんエアコンが効いていますが、外気と温度差がありすぎるのも良くないので冷やしすぎないようにしています。またこの時期は胃腸が弱りやすい上、食べ物も傷みやすいので食中毒などにも気をつけましょう。

ところで夏の食材の保存について、ふと私の会社員時代の仕事のことを思い出しました。積水化学工業という会社と共同で発泡スチロール製の食材の保存ケースを開発した時のことです。容積・熱伝導率などを計算して実際に真夏の炎天下を輸送して食材温度の変化を調べました。理系の人たちと数値をもとにやり取りする場面が多かったです。それを実用新案として特許庁に申請する仕事もしました。こちらは弁理士さんとの共同作業で、どちらかという和法律に照らし合わせて言葉で説得する文系の仕事。自分は文系だから数字のやり取りはわからないとか、理系だから法律のことは無理では済まされないのが仕事というものです。また文系・理系問わず、これからは、国内だけの仕事だから英語は必要ないだろうと思ったら大間違いです。

この春の卒塾生の中に中学の頃から英語が得意だった男子がいます。一時期は国際関係の学部に進むことも考えたようですが、最終的には英語は道具として身につけよう、そして自分のやりたい工学の勉強をしようという結論で進路を選びました。同様に高校時代はESS（英語研究部）にいて英検準1級を取得しつつ、現役で千葉大工学部に合格した女子は今この塾で講師として英語も数学も教えています。そもそも文系・理系という区別そのものが、高校のカリキュラム上の都合で振り分けるだけのもの、社会に出てからの境界線はありません。少なくとも中学のうち、初めから私は文系だからとか理系だからと決めつけて好きな科目にしか手を出さないというのはNGです。食わず嫌いと同じような「やらず嫌い」の科目をなくするのがこの夏の目標ですよ！